

令和7年度 自己点検・自己評価について

国立病院機構岡山医療センター
附属岡山看護助産学校

1. 自己点検・自己評価の概要

- 1) 全国国立病院附属看護学校副学校長・教育主事協議会中国四国支部が作成した「自己評価書」を用いて、教職員が評価する。
- 2) 自己点検・自己評価の結果を分析することで改善点を明確化し、具体的な計画を立案して取り組む。

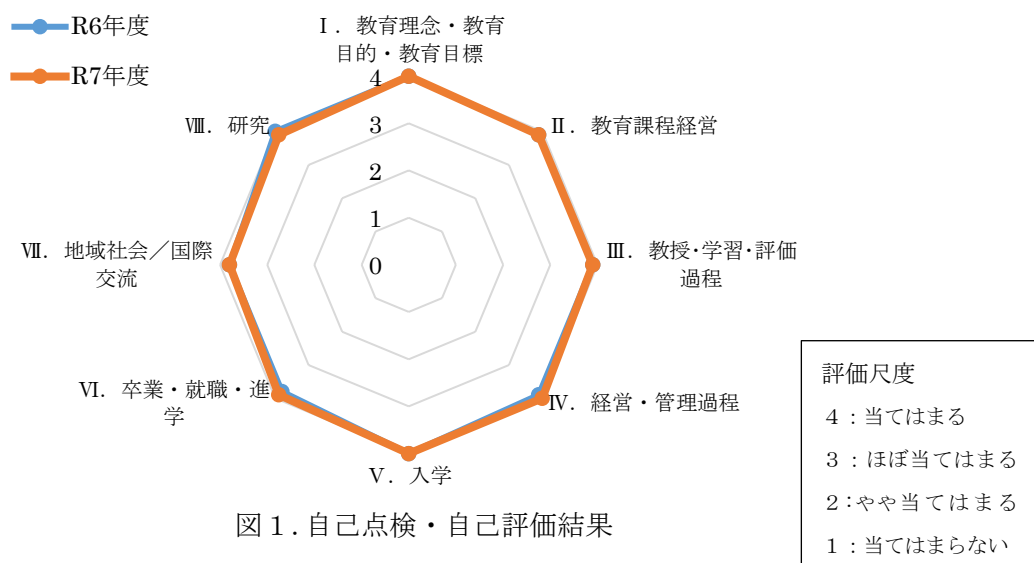
2. 評価内容・方法

- 1) 評価表 : 8領域、127 の評価項目
- 2) 評価基準 : 4段階評定
4. 当てはまる 3. ほぼ当てはまる 2. やや当てはまる 1. 当てはまらない

3. 評価結果

表1. 領域別評価結果

評価内容 (領域)	年度別平均点		
	R5 年度	R6 年度	R7 年度
I. 教育理念・教育目的・教育目標 (法との整合性 教育の特徴の明示)	4.0	4.0	4.0
II. 教育課程経営 (教育課程編成の考え方 教育計画・評価)	3.9	3.9	3.9
III. 教授・学習・評価過程 (授業展開過程 学習支援)	3.9	3.9	3.9
IV. 経営・管理過程 (指針 組織体制 施設設備 学生生活支援)	3.9	3.9	4.0
V. 入学 (入学選抜の考え方・妥当性)	4.0	4.0	4.0
VI. 卒業・就職・進学 (就職・進学状況 国家試験合格状況卒業後の学生の状況把握)	3.7	3.8	3.9
VII. 地域社会／国際交流 (地域との連携 国際的視野 留学生受け入れ)	3.8	3.8	3.8
VIII. 研究 (研究活動の保障 研究成果発表)	3.9	4.0	3.9
平均	3.9	3.9	3.9



4. 各領域の結果と今後の課題

I. 教育理念・教育目的・教育目標（法との整合性 教育の特徴の明示）

国立病院機構及び社会に貢献できる有能な人材を育成するため「博愛」「叡智」「自律」を基盤とし、教育理念、教育目的を明確に掲げ学校の特徴を表現している。アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを、学生便覧、ホームページ、スクールガイド等に掲載、シラバスにも明記し、学生及び社会に対して公表している。教育理念・教育目的・教育目標・教育方針に基づきシラバスを作成し、教職員は教育理念等に基づいて日々の教育実践を行っている。1年次から2・3年次へと階層的・計画的に取り組めるよう、各学年の年間計画に組み込んで取り組んでいる。しかし、各学年で教員が目標を立て計画的に取り組んでいるものの、学年ごとの具体的な「学年別教育目標」を明示するに至っていないため、学生にとっても理解しやすい教育につながるよう取り組んでいく必要がある。

【課題】

学年ごとの具体的な「学年別教育目標」を学生便覧へ明記する。

II. 教育課程経営（教育課程編成の考え方 教育計画・評価）

教職員は、教育理念・教育目的の達成に向けて、4つのプロジェクト会議や教員会議等の機会を通して一貫した教育活動を行っている。教職員はコミュニケーションを図り相互理解に努めている。

教育内容は看護師等養成所指定規則に基づき、教育目標の到達に向けた教育課程を編成している。科目・単元構成についても、教育理念・教育目的・教育目標と整合性があり、構成されている。教育計画については、カリキュラム改正の趣旨に準じた計画となっており、教員・学生の双方がわかるように、シラバスや学生便覧等に明示している。

教育課程評価の体系については、単位認定の基準や方法は妥当である。教育課程の評価は、学生による授業評価と自己点検・自己評価の意見を反映させた教育課程としている。

教員の教育・研究活動の充実については、研修後の伝達講習をすることで教員が学びの共有となり、組織の活性化につながっている。自己研鑽のシステムとしては、年度初めに教員研究助成金計画を立案しており、その際に研修や学会に参加することを推奨している。また、面接などの機会に、看護教員能力開発プログラム（TNAD）を活用して各教員のキャリア形成を促している。さらに、令和7年度は看護管理実務研修（5日間研修）へ教員2名参加し、自己の教育実践活動を再考し今後取り組むべき課題を見出し、管理能力の育成に努めている。しかし、教員間で協力しているが、業務時間内で授業準備のための時間が確保できていない現状がある。

【課題】

業務効率化の工夫について検討する。

III. 教授・学習・評価過程（授業展開過程 学習支援）

【看護学科】

授業内容と教育課程との一貫性、看護学としての妥当性、また科目内容間の関連性・発展性については、シラバスに科目のねらいのみならず、科目の位置づけや科目間の関連性を明確に記載している。さらに、シラバスにはカリキュラムデザイン、教育課程構造図、教育課程進捗計画が示しており、教育理念・教育目標に沿った科目設定および順序性に基づく科目配列となっている。

授業の展開過程については、授業内容に応じて適切な方法が選択され、シラバスにも明記している。教科外活動においても、学生の学習段階に応じた計画が立てられ、特別講義や実習前演習など、学生の状況に合わせた内容となるよう検討し実施している。学習支援については、国家試験対策を全教員のチューター制で行っているほか、基礎看護技術の演習補助や技術試験は年間計画をもとに全教員で評価を行っており、教員間の協力体制は明確である。

目標達成の評価とフィードバックについては評価計画に基づき授業過程評価を行っている。講師会議や実習指導者会議において評価結果を検討し、次年度の課題として報告している。学生による授業評価やカリキュラム評価も実施しており、多面的な視点から科目の達成状況を把握している。令和7年度から令和8年度にかけて基礎分野の複数講師が変更となっているため、今後も学生が講義を受けやすく学習の質が保証されるよう調整を行っていく必要がある。実習評価においてはルーブリックを導入し、具

体的な評価規準を示すことで評価者と学生双方が達成状況を共有できるようになった点は有益である。

【課題】

講師変更後も学習の質保証できるよう、講師との調整を行う。

【助産学科】

新カリキュラム編成時に各科目の関連性、順序性、一貫性を整え、シラバス・評価表の修正や時間割の調整を行い、学生の学修段階に応じた授業展開となるよう授業を計画している。一貫性では、助産診断・技術学各期では、院内講師を含めた複数人で講義を行うため、科目内容のマトリックスを作成している。分娩期の実践能力については、卒業前だけでなく9月の講義時期に「分娩介助中間 OSCE」を実施し、後半の実習につなげている。さらに、授業や実習の中で発展課題を認識し、課題に取り組めるように支援をしている。

臨地実習においては、実習場所が多岐にわたるため実習場所別に日にち毎の担当者を明示している。次年度は、遠隔地での実習においても学習がよりスムーズに行えるよう e-テキストの導入するため、導入後の活用状況など検討する。

教育評価については、評価計画をシラバスや実習要綱に明示して実施おり、評価方法は記述のみではなく、授業過程におけるレポートなどの課題を配点に加え多様な評価を取り入れている。教育評価は授業評価、実習評価、卒業時の到達度評価など多様な側面から目標到達状況を把握している。また、学科全体で実施した教育実践に関しては、各々の目的に応じた評価表を用いて評価し、学生の形成的評価の指標とし、さらに主担当者を中心に教育実践の総括を行い、次年度の課題の明確化に取り組んでいる。

【課題】

助産学科の e-テキスト導入後の評価を行う。

IV. 経営・管理過程 (指針 組織体制 施設設備 学生生活支援)

学校の運営方針は、国立病院機構の運営方針および運営計画に基づいて決定されており、その一貫性は確保されている。財政基盤については学校概況書等により明示され、運営会議において学校経営に関する収支報告が行われている。また、教員会議では、副学校長および教育主事より母体病院の経営状況が共有され、学校運営に必要な情報が適切に伝達されている。

施設・設備については、日々の業者清掃に加え、全館清掃・床ワックス・エアコンフィルター交換など、年2回のメンテナンスを実施し適切に管理している。経年劣化による修繕の優先順位を判断し対応している。

学校および学生寮の防災体制については、防災マニュアルの見直しを行い、防災避難訓練の振り返りを踏まえて改善を図った。防災避難訓練は年1回実施しており、防火・防災マニュアルの整備と併せて、目的に沿った訓練を実施し、災害時への備えを強化している。

広報活動については、令和7年度より Instagram の開設、岡山駅のデジタルサイネージの活用、ホームページのリニューアルと定期投稿による情報発信を行っている。さらに、学校説明会・オープンスクール・学生祭などを通じて学生・教職員・地域との交流を積極的に図り、社会的説明責任を果たす取り組みとなっている。

【課題】

学生確保に向けた広報活動を継続する。

V. 入学 (入学選抜の考え方・妥当性)

教育理念・教育目的・教育目標は明確に示されており、入学選抜に関する基本的な考え方も明確である。入学試験は「入学試験実施規程」、面接は「面接実施要領」に基づき実施し、入学選抜方法および結果については入学試験委員会において審議・決定している。また、社会的背景や入学後の成績推移を踏まえて募集活動や選抜要項を見直し、入学応募者開拓の取り組みと現状の評価を行っている。

学校説明会は、高校教諭の希望に応じて来校型とオンライン型のハイブリッド形式で開催し、参加しやすい時間帯の設定や在校生との交流など、運営方法の見直しを行っている。岡山県内および近隣の高校訪問、岡山県看護協会主催の学校説明会への参加、病院広報委員会との連携など、入学希望者確保のための取り組みも継続している。

オープンスクールでは、公開講座、看護技術の体験、学生との交流会、進路説明会等を実施している。現在は、オープンスクールにおいて母体病院の見学を組み込むよう検討している。また、母体病院によるプチ相談会やNH0就職説明会を連携して行うなど、母体病院との協働体制を生かした広報活動を展開している。

【課題】

社会的ニーズを踏まえながら入学者確保に向けて創意工夫していく。

VI. 卒業・就職・進学（就職・進学状況 国家試験合格状況卒業後の学生の状況把握）

令和7年度もホームカミングデーを実施し、卒業生から就職後の意見を聴取する機会を確保することができた。短時間ではあったものの、卒業後の状況を直接把握できる貴重な機会となった。

卒業時の到達度については、実習経験録、実習評価表に基づいた到達度、および卒業時到達度調査を集計・分析し、3月の実習指導者会議にて情報提供を行っている。助産学科においては、分娩介助に関する「卒業前OSCE」を実施している。一方で、卒業生の就職先における情報交換は十分とは言えず、今後は指導者会議などの機会を積極的に活用し、卒業生の状況把握を行い、基礎教育における技術教育・倫理教育の改善に反映していく必要がある。

国家試験対策については、学生の学習状況を把握した上で学科内で検討を重ね、計画的に実施している。また国家試験結果の分析を行い、次年度の方針に反映している。助産学科においては、令和5年度よりNH03校が協同し、授業資料を作成・共有化する取り組みを進めている。

卒業生の就職・進学状況は一覧化して整理し、確認しやすい形で管理している。施設によっては、卒業生自身の近況報告だけでなく、配属病棟の師長やプリセプターからのメッセージが提供される場合もあり、卒業後の状況把握や支援を検討する上での手がかりとして活用している。

【課題】

卒業生に対するホームカミングデーを継続する。

VII. 地域社会／国際交流（地域との連携 国際的視野 留学生受け入れ）

献血活動やサマーキャンプへの参加、病院フェスタと学生祭のコラボ開催、公開講座などを通じて、地域との連携を継続して図っている。また、高等学校教諭対象の学校説明会、オープンスクール、学生祭を参集形式で実施したことで、地域との交流の機会がもてていると考える。

地域内の諸資源の活用においては、講義内容に応じて近隣大学など専門性の高い講師に依頼しており、SP演習においては岡山SP研究会に協力を得ている。実習では、NH0に限らず、訪問看護ステーション、介護老人保健施設、精神科病院など地域に密着した多様な施設で学習できるよう配慮している。また、学生祭においては精神障害者通所授産施設によるパン販売を実施し、精神障害への理解促進や社会復帰支援につながる地域貢献活動となっている。

地域のニーズを踏まえ、学生が主体的に参加し、社会貢献につながる活動を推進していく必要がある。

【課題】

学生がボランティア活動へ参加できるよう支援する。

VIII. 研究（研究活動の保障 研究成果発表）

教員の研究活動を保障する体制としては、副学校長・教育主事協議会による教員研究会開催への支援、勤務時間内での研究会参加を可能とするための調整など、時間的、財政的、環境的な支援を行っている。また、学校研究倫理委員会を設置しており、学校職員が研究責任者となる研究について、外部委員を含む委員会で倫理審査を行っている。研究支援の観点では、副学校長および教育主事から研修情報がタイムリーに提供されているほか、研修受講後には教員会議での伝達講習が行われ、学会発表前のリハーサルを通じて教員間でディスカッションを行うなど、相互研鑽を図っている。学会発表のスライドやポスターを学内に掲示することで、学生や教職員に研究内容を共有する機会がある。

令和7年度は、中国四国地区看護研究学会、国立病院総合医学学会等において研究発表を7題行い、また学会誌へ論文を2題投稿した。岡山看護助産学校研究倫理審査委員会では4題の研究計画書が承認され、研究活動の推進を図っている。